伝統と革新はセットである

窪田織物株式会社
代表取締役　窪田　茂

「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」が1974年5月に制定され，国による伝統的工芸品の産業振興策がスタートしました。その鹿児島県第１号として認定されたのが，伝統的工芸品「本場大島紬」でした。

来年は明治維新150周年を迎えます。維新当時，近代国家の中枢にいた多くの人物は，島津斉彬公によって育てられた薩摩藩の志士たちでした。明治以降，日本は近代国家を目指し，人口の増加や，ものの豊かさにあふれた時代が続きました。インフレの波にも乗り昭和50年前後まで高度成長してきました。しかし，その後，坂を転げ落ちるようにデフレ経済に入り，長いトンネルから抜け出ることが出来ない状況が続いています。

しかし，グローバル化とともに，日本の文化や暮らしの文化・食の文化・和の文化を楽しみたいという世界の人々がインバウンドとして2千万人以上日本にやってくるようになりました。この光景を私達は現実として捉えなければなりません。大きな変化の波です。これまで私達の大島紬産業は守りに守ってきました。この精神は現在の私達には見習うべきところであります。しかし，日本国内だけを見て仕事をしていれば良かった時代から，世界を相手に仕事をしていかなければならない時代がやってきました。

私達の産業・ものづくりは，もはやグローバル化を避けては通れません。守る大島紬と新しい分野の大島紬というものを考える時期が来ているのではないかと思えてなりません。世の中は多様化の時代です。着物だけにとらわれない世界中のお客様を消費者と捉えたものづくり・商品開発をしていく必要があると思います。

守る一辺倒から，変化に対応し世界の情報を取り込んだ商品開発を急がなければならないと考えますので，長い間業界の大きな力になってきた奄美の大島紬技術指導センターの縮小は残念でなりません。しかし今以上に，世界三大織物の一つ「本場大島紬」を鹿児島県の財産として，産地を挙げて世界に発信させて頂きたいものです。

工業技術センターには，糸の問題，色落ちの問題，地入の打ち込みの問題，そして知的財産に関することまで色々と相談させて頂きました。これからは行政を含めてオール鹿児島体制で世界に発信していきたいものです。

私達は今の時代をしっかりと把握し，固定観念だけにとらわれないものづくりを重要視しなければなりません。日本から世界へのグローバル的な発想が必要で，多くのデザイナーとコラボレーションをして，多彩なものづくりをしていきたいと思っている次第です。

海外デザイナーとコラボ開発した紬ドレス